



土曜 子ども 教室

カワイイ だいす いつだって Kawaii 大好き

今回は徳川美術館が収蔵する品々の中から「かわいい」作品を展示しました。皆さんが感じる「かわいい」を探して、「かわいい」って何かを見つけてみよう!!

1 小さいものは みなうつくし

昔も今も私たち人間には、小さいモノを「かわいい」と思う感覚があります。平安時代の女性作家・清少納言は『枕草子』のなかで、「小さいものはみなうつくし（小さいものはすべてかわいらしい）」と語っています。この言葉に表されるように、古くから日本人は小さくかわいらしいモノに愛情を注ぎできました。

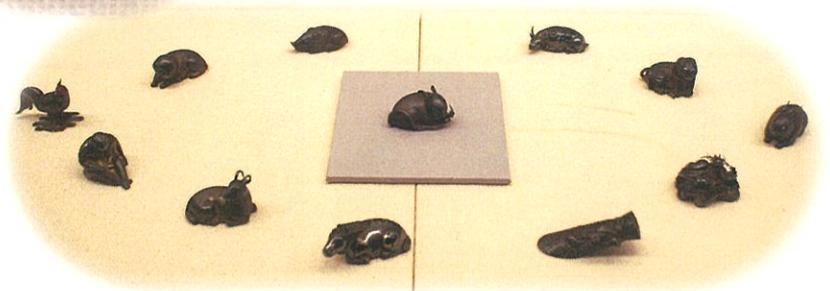


動物たち

No.9 ~ No.14

象、馬、鳩、兎...

書を書いたり、絵を描く人は、良い道具を求め、そこに美しさを見出し楽しみました。水滴や文鎮などは、使う人の好みが反映されました。



刀装具



No.39

武士の魂である刀を収める拵には鐔や三所物（小柄・筭・目貫）など、金・銀・銅で細かい細工がされた金具が付いています。そのデザインは龍や獅子といった強く勇猛な動物ばかりではなく、可憐な草花やかわいらしい小動物が取り入れられており、武士のおしゃれ心を感じ取ることができます。

象牙細工

No.54 ~ No.56 内裏雛、桃太郎、印籠

象牙の牙は白く美しいことから、古くから西洋でも東洋でも珍重されてきました。日本では根付が有名ですが、驚くほど小さな人形、ミニチュアの道具があります。



2 ひいなの世界

「ひいな」は古くは「ひひな」と書き、紙などで作られた人形をいいました。のちに雛人形を指すようになり、人形に着物を着せたり、調度を整えたり、飾ったりする「ひひな遊び」は、平安時代から貴族の女子の遊びとして行われてきました。



No.60 内裏雛飾り

お内裏さまもお雛さまも丸いお顔。

No.81 雛の器

お雛さま用なのでお皿も茶碗もミニチュア





いつでも Kawaii 大好き

3 さまざまなかわいい人形

ぽつちりと白い肌、小さな手足に大きな顔、そして、ちんまりとした目や鼻。かわいらしい小さな子どもの姿に作られた人形です。皇室や公家が大名へのお返しの品に用いたことから「御所人形」といわれるようになったともいわれます。子どもの健やかな成長を願う人々の祈りが込められています。



御所人形 No.62



No.74・No.75 髪人形
いろいろな髪型に変身



No.78 豆ビスク

ビスク・ドールは頭や手足が磁器でできています。19世紀のヨーロッパで、上流階級の女性たちの中で流行しました。日本でもビスク・ドールを真似た人形が作られました。



No.69~No.73 市松人形

市松人形は、江戸時代後期の歌舞伎役者・佐野川市松に似せた人形が売りに出されたのが始まりとされます。髪や衣装を替え、手足も自由に動かして楽しむことができる人形として人気がありました。



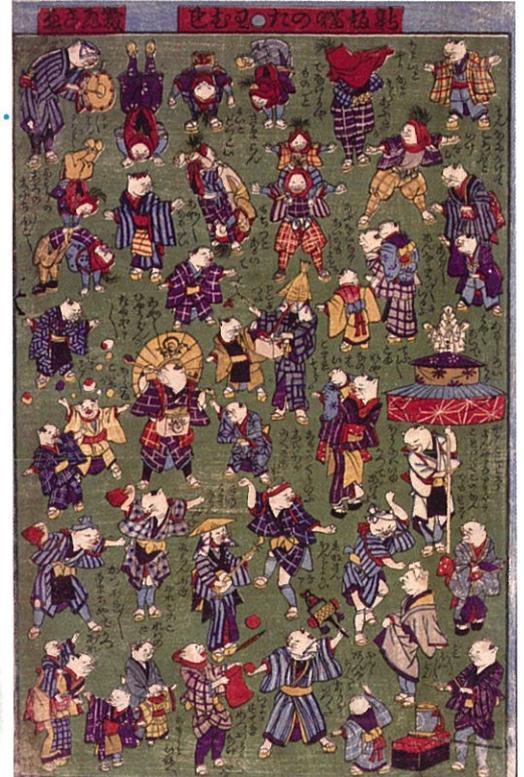
No.76 人形衣装

4 おもちゃ絵

No.110~No.117

おもちゃ絵は、幕末から明治にかけて子ども向けに販売された浮世絵版画です。

猫のたわむれ 人間化したいろいろな猫がいっぱい。



5 きょうどがんく 郷土玩具



No.118~No.132

郷土玩具は、日本各地でその土地の風俗や伝説などを基に手作りで作られ、親しまれてきたおもちゃです。



あなたが見つけた「かわいい」はなに？